

教授 田中 範康

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例		<ul style="list-style-type: none"> <li>・和声学では、2年間という限られた期間で、ハイグレードクラスには、最終段階（2年次後期）で、近親転調を含んだBass課題に加え、定型を中心としたソプラノ課題も実施させた。</li> <li>・和声学特論では、シャランの380和声学で、両外声を指定し、数字に従って、内声を作り込む方法を実施させた。</li> <li>・対位法では前期は2声の純粹対位法を、後期は2声の簡易なインヴェンションを一定のフォームに従って実施させた。</li> </ul>
◎作成した教科書・教材		対位法において、前期では、純粹対位法の基礎の部分について、学習が効率的に学べるために、毎回レジュメを作成し配布している。後期に実施する2声インヴェンションについても、学習フーガをもとにしながら作り方を例示したレジュメを作成して単位ごとに学生に配布した。
◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価		例年行なわれている、学生からの授業評価の報告を見る限り、担当科目全てにおいて良好な評価を得ている。しかし、近年、基礎能力が極端に不足している学生の入学も増えており、今以上の授業内容の工夫が必要と考えている。
◎その他		和声学では、現在同時開講で授業を展開している。今後は、本学の現状を認識した上で、ソルフェージュも含む理論科目全般において、一元的な教育をほどこすためのメソッド制作が急務であると考えている。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
◎作曲作品 リコーダー、アコーディオンとエレクトロニクスの為の「Sprkling in the space VII」(初演)	単	2016. 6	ニンフェアール第18回公演 会場：愛知県芸術劇場小ホール	本作品は、エレクトロニクスとアコースティック楽器による Sparkling in the Space シリーズの第7曲目となる。リコーダー、アコーディオンのフレーズを、電氣的に波形を変え、生演奏の原音と可変されたサウンド

<p>ファゴットとエレクトロニクスによる「Sprkling in the space Ⅷ」 （初演）</p>	<p>単</p>	<p>2016. 11</p>	<p>〈Inexplicable OWL 第4回公演〉 会場：ひとみホール</p>	<p>によるアンサンブルを試みた。また、冒頭に提示される音群をもとに、それが垂直、水平関係に様々な関係で反映されながら、全曲を構成している。 演奏者：リコーダー 鈴木俊哉 アコーディオン 太田智美 演奏時間:約13分</p> <p>本作品は、エレクトロニクスとアコースティック楽器による Sparkling in the Space シリーズの第9曲目となる。ファゴットの生の音をコンピュータに取り込み、それを可変させた音と、シンセ音源を編集した音を、ファゴットの生演奏と有機的な融合を目指し、新たな音響世界の構築を狙った。音楽構成は、冒頭の音列的なテーマが断片的に使われ、それがコアになって全曲を統一している。 演奏者：ファゴット 依田嘉明 演奏時間：約12分</p>
<p>ギターソロのための 〈Nocture〉 （初演）</p>	<p>単</p>	<p>2017. 2</p>	<p>日本現代音楽協会主催 「アンデパンダン展」 現音秋の音楽展2016</p>	<p>2章からなる本作品は、厳密な動機書法などにこだわらず、さらに、調性と無調の狭間を浮遊する響きの世界を構築した。そして豊富な倍音を含んだギターのソノリティーを、どのように空間に広がる自然な響きを狙えるかに主眼をおき、その目的の為に演奏者の助言を加味しながら様々な工夫を試みた作品であるといえる。 演奏者：ギター 佐藤紀雄 演奏時間：約13分</p>